

手土場所の十両優勝を果した麻繩部屋の初日は、その新入幕の初日は、光との一番。立会いから先手を取って攻め込め、生駒山戦でも相手に差し入る隙を与えずに連勝。

翌三日目は先場所入幕を果した鳥海波との一番、互角の立会いから互いに右を押し付け合い左を伺う両者。半周ほどの攻防が続いたところ、強引な右の押し付けで攻め込む鳥海波。しかし土俵半周凌ぎ体勢を立て直した若剣がその右を切った。左を差し寄り切った。若から好調さは維持している様で、四日目以降も更なる白星を重ねて麻繩親方を喜ばせられるか。

初日こそ横綱、大関が白星を並べたが初日に完勝し好スタートと思われた若乃嶋が二日に玄武岩に押し倒され、三日目には新大関となった魁電が佐賀海の引き落としに敗れ、それぞれ一敗を喫し、協会陣を喜ばせる結果とはいかなかった。しかし終わった序盤の三日目が終われば、三役に返り咲いた支那虎、新興勢力からは先場所三枚目で8敗した剛勇山、四枚目を9連敗して周囲を心配させた夢力もそれぞれ白星を先行させず、白星を先走りを切った。



剣 竜○(寄り切り) ●磯 光



鳥海波●(寄り切り) ○剣 竜



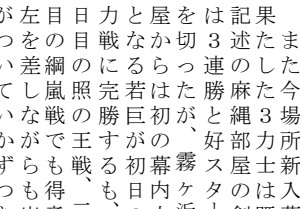
英 筏●(押し倒し) ○若乃嶋



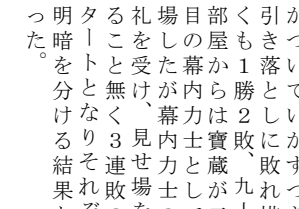
玄武岩○(押し倒し) ●若乃嶋



魁 電○(押し倒し) ●支那虎



若 巨○(寄り切り) ●夢 力



寶 蔵●(押し倒し) ○鹿富士



佐賀海○(引き落とし) ●魁 電



若 巨○(寄り切り) ●夢 力



寶 蔵●(押し倒し) ○鹿富士

三日目までの序盤戦を取り終えて3戦全勝と好スタートを切ったのは横綱美空富士、大関春ノ翔、平幕の月山、剣竜と早くも四力士となり、横綱若乃嶋をはじめとする1敗勢が追う展開で四日目以降の中盤戦を迎える。

次開催は毎年恒例となったブーケットより一時帰国の徳川御大をお招きしての本場所となり、十両の土俵では一年ぶりに「神の手降臨」となり、いつも以上に盛り上がるのは必至だろう。その楽しみ満載な次回は6月16日に開催予定された。全国の紙相撲ファンの方々に乞うご期待！

(香具山)

新十両西磯野

麒麟王が三勝

十両も三日目まで行われ、3連勝としたのは西磯野と再十両の麒麟王の2人。春日根親方が復讐を果たしてからの望の関取第一号となった西磯野。この日の春日根親方は元々先約が入っていたのをキャンセルしての参加。その甲斐もあってか3番とも動きもよく相手を圧倒。この結果に「やっぱり1日間毎日取れるのは嬉しいですね」と満面の笑みを見せた。そうすると、このまま白星を重ねれば十九勢や霧ヶ浜勢との対戦も増えそうである。春日根部屋のみなならず、これから協会としての期待も大きくなっていく。



西磯野○(寄り切り) ●男女山



磯 燕●(寄り切り) ○西磯野



麒麟王○(突き倒し) ●磯日丸

東筆頭の伊達の富士は初日敗れたが連勝で再入幕に向けまずまずのスタート。一時は十両から陥落・引退の瀬戸際まで追い込まれたが見事に復活を遂げてきた。鬼門の東筆頭だを突破するか、ノルマはあと4勝だ。

九十九部屋の3力士はともに2勝1敗と順当な滑り出し。今場所は日向藤が西筆頭に位置し入幕のチャンス。葵盛と喜乃郷も優勝争いには絡んでくるようなことがあると2人、更には3人全員が入幕ということもあり得るかもしれない。

龍不動が西四枚目まで番付を上げてきた。連敗発進となって迎えた三日目は曲者の琴乃王を左差しから寄り切り下した。こちらも入幕に向け波に乗っていききたい。



黒雲海○(寄り切り) ●桃乃洲



鬼ヶ嶽○(寄り切り) ●電 幕

引退も囁かれていた鬼ヶ嶽が十両で再起をかけることとなった。元大関の十両に下がって思われるのはどうかともん張りにかけることになった。場所は錦風部屋で稽古を積んだ形だが親方曰く「ん、力が落ちてきているよね、脇も軽く差されちゃうんだよね」と不安な面を指摘しての出だしとなった。1勝2敗と黒星先行の出だしとなった。四日目以降の踏ん張りには期待したい。

(勝間田)

